

## ■ 概況

8/31~9/6のNYMEX・WTIIは、47.23~49.16ドルの範囲で推移した。

9月7日は、一日遅れの米国在庫週報が原油在庫の予想を上回る増加を示した一方で、ドル安の進行による割安感からの買い戻しで、わずかに値下がりした。米エネルギー情報局(EIA)が発表した原油在庫は前週比460万バレル増と市場予想(同400万バレル増)を上回り、10週振りの増加を示した。他方、ガソリンと中間留分の在庫はいずれも減少したものの、予想を下回った。10月限の終値は前日比0.07ドル安の49.09ドルだった。

週末9月8日は、フロリダ州に接近中のハリケーン「イルマ」に対する警戒感、製油所停止に伴う原油在庫増加懸念から、大幅続落した。ペーカー・ヒューズ社による米国内石油掘削リグ稼働数は756基(前週比3基減)だったが、市場への影響は限定的だった。10月限の終値は前日比1.61ドル安の47.48ドルだった。

週明け11日は、熱帯低気圧になった「イルマ」によるフロリダ州・ジョージア州等での避難や停電等の被害に伴う石油需要の減退懸念で売りが先行したが、先のハリケーン「ハービー」で操業を停止していた製油所が概ね再開したとの報を受けて買い進まれ、3営業日振りに反発した。サウジのファリハ・エネルギー相の2018年3月までの協調減産の3ヵ月延長発言も支援材料となった。10月限の終値は前週末比0.59ドル高の48.07ドルだった。

12日は、OPEC月報が、8月の加盟国産油量が日量8万バレル減と3月以来5ヵ月振りの減少を報じたこと、ハリケーン被害からの復旧が進んでおり、在庫増加懸念が後退したことから、続伸した。10月限の終値は前日比0.16ドル高の48.23ドルだった。

13日は、IEA石油市場月報で、8月のOPEC産油量が減少するとともに、2017年の世界需要の増加見通しが上方修正されたこと、EIAの米国在庫週報で、原油在庫は増加したものの、ガソリン・中間留分在庫が大きく減少し、需給に引き締め感が出たことから続伸した。10月限の終値は前日比1.07ドル高の49.30ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(10月渡し)は、前週49.40~52.00の範囲で推移、50ドル台を回復した。9月7日52.60ドル、8日53.40ドル、11日52.70ドル、12日52.40ドル、13日は52.70ドルで推移した。

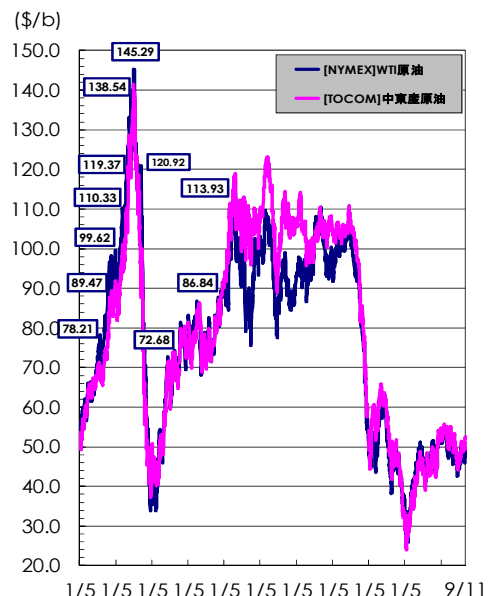
為替は、前週108.64~110.42円の範囲で円高気味に推移した。9月7日109.19円、8日は108.40円、11日108.44円、12日109.53円、13日110.14円で推移した。

主要元売会社の9月第3週に適用する卸価格は、1.0~1.5円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、9月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油も同横ばいだった。ガソリンは6週振りの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は7週連続の横ばいだった。この週(9月第2週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、元売の卸価格は、全社とも据え置かれた。

そのような中で、9月11日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油は同横ばい、灯油も同横ばいだった。ガソリンは6週振りの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は7週連続の横ばいだった。この週(9月第2週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、元売の卸価格は、全社とも据え置かれた。

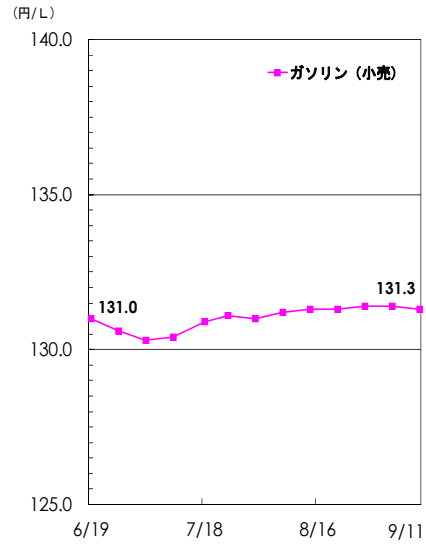
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	9/3 ~ 9/9	3,546 ▼ -28	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	90.5 ▼ -0.7	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	9/9	13,673 ▲ 925	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	9/11	52.23 ▲ 1.60	▲ 8.2
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	9/11	48.07 ▼ -0.59	▲ 1.8
	原油CIF単価 (\$/bbl)	8月中旬	49.00 ▲ 0.57	▲ 3.60
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	34,097 ▲ 95	▲ 4,582
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.61 ▲ 1.00	▼ -7.26
	外国為替TTSレート (¥/\$)	9/11	109.44 ▲ 1.39	▼ -5.80



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	1,013 ▼ -50	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	877 ▼ -201	▼ -	
	輸出	"	72 ▲ 32	▲ -	
	在庫	9/9	1,712 ▲ 64	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	49.9 ▲ 0.1	▲ 7.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	50.3 ▲ 0.7	▲ 9.1
		(TOCOM/中部)	9/11	50.0 ▲ 0.5	▲ 9.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	131.3 ▼ -0.1	▲ 8.3	

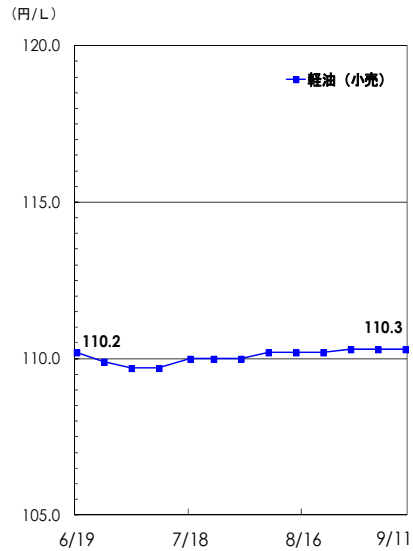
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

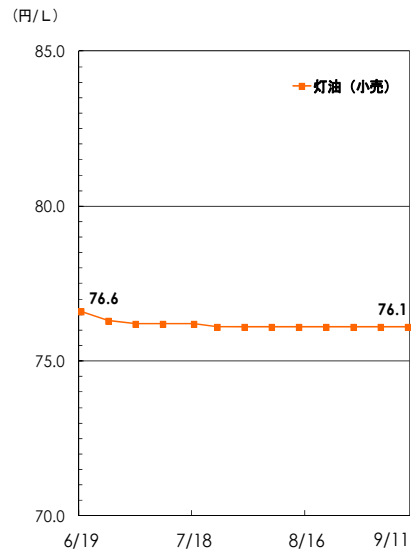
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	907 ▲ 68	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	614 ▼ -165	▼ -	
	輸出	"	204 ▼ -39	▲ -	
	在庫	9/9	1,503 ▲ 90	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	48.3 ▲ 0.2	▲ 9.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	48.0 ➡ 0.0	▲ 8.8
		(TOCOM/中部)	9/11	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	110.3 ➡ 0.0	▲ 7.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	9/3 ~ 9/9	134 ▼ -86	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	163 ▲ 18	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	9/9	2,327 ▼ -30	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	9/5 ~ 9/11	48.2 ➡ 0.0	▲ 11.2	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	9/5 ~ 9/11	49.1 ▲ 0.9	▲ 10.0
		(TOCOM/中部)	9/11	48.5 ➡ 0.0	▲ 10.2
	小売 [週動向] (資工庁公表)	9/11	76.1 ➡ 0.0	▲ 12.2	



■ 関連情報

1 海外/原油

9月13日のNYMEX市場WTI原油は、国際エネルギー機関(IEA)の9月石油市場報告で、石油輸出国機構(OPEC)や米国の減産による8月の世界原油生産量が4か月振りに減少したこと、2017年の世界石油需要量の伸びが日量150万バレルから160万バレルへ上方修正されたこと、また、米国エネルギー情報局(EIA)が、米国週間在庫統計で、原油在庫が前週比590万バレル増と、市場予想(同320万バレル増)を上回る増加の一方で、ガソリン在庫の同840万バレル減、中間留分在庫の同320万バレル減と市場予想を大きく上回る減少により、石油需給の緩和感が大きく後退したた

め続伸し、8月9日以来約1ヵ月振りの高値を記録した。10月限の終値は、前日比1.07ドル高の49.30ドル、11月限の終値は前日比1.00ドル高の49.75ドルだった。

EIAによると、9月11日時点のガソリンの小売価格は前週比0.6セント値上がりの1ガロン2.685ドル(77.5円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比4.4セント値上がりの2.802ドル(80.9円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値上がり、ディーゼルも3週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、9月3日～9月9日に休止したトッパー能力は10万バレル/日で、前週に対して1.4万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は354.6万klと、前週に比べ2.8万kl減少。前年に対しては3.5万klの減少。トッパー稼働率は90.5%と前週に対して0.7ポイントの減少、前年に対しては6.2ポイントの増加となった。

生産は前週に比べて軽油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/4.7%減、ジェット/0.3%減、灯油/39.2%減、軽油/8.1%増、A重油/11.6%減、C重油/5.5%増。今週のC重油の輸入は1.4万kl(前週比4.9万kl減)。軽油の輸出は20.4万kl(前週比3.9万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、灯油、C重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、灯油、A重油が増加し、その他の油種で減少した。ガソリンの出荷は87.7万kl(対前週18.6%減)と2週振りに前週比、前年比で減少となり、2週振りに100万klを下回った。

ジェット6.9万kl(対前週333.5%増)、灯油16.3万kl(対前週12.7%増)、軽油61.4万kl(対前週21.2%減)、A重油19.3万kl(対前週4.1%減)、C重油19.1万

kl(対前週19.9%増)。

(単位:千KL)

	今週 (9/3 ~ 9/9)	前週 (8/27 ~ 9/2)	前週比
ガソリン	877	1,078	▼ -201 (-19%)
ジェット燃料	69	16	▲ 53 (331%)
灯油	163	145	▲ 18 (12%)
軽油	614	779	▼ -165 (-21%)
A重油	193	201	▼ -8 (-4%)
C重油	191	159	▲ 32 (20%)
合計	2,107	2,378	▼ -271 (-11%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

9月9日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、軽油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては、ガソリン、A重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.2万kl、前週差6.4万kl増。前年に対しては1.6万kl多い。

灯油は232.7万kl、前週差3.0万kl減。前年に対しては38.4万kl少ない。

軽油は150.3万kl、前週差9.0万kl増。前年に対しては28.3万kl少ない。

A重油は77.6万kl、前週差0.9万kl減。前年に対しては1.7万kl多い。

C重油は208.7万kl、前週差7.5万kl減。前年に対しては0.3万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (9/9)	前週 (9/2)	前週比
ガソリン	1,712	1,648	▲ 64 (4%)
ジェット燃料	1,040	977	▲ 63 (6%)
灯油	2,327	2,357	▼ -30 (-1%)
軽油	1,503	1,413	▲ 90 (6%)
A重油	776	785	▼ -9 (-1%)
C重油	2,087	2,162	▼ -75 (-3%)
合計	9,445	9,342	▲ 103 (1.1%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

9月5日から11日までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン103円台で堅調、軽油48円台で横ばい、灯油48円台で堅調に推移した。

海上スポット価格は、ガソリン105～106円台で堅調、軽油48円台で横ばい、灯油47～48円台で堅調に推移した。

先物価格は、ガソリン103～104円台でほぼ横ばい、軽油48～49円台で横ばい、灯油48円台で堅調に推移した。元売の卸価格は、1.0～1.5円の値上げとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

9月5日から11日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は、海上・先物の軽油、陸上の灯油を除き、値上りした。

9月第3週(9月14日～20日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(9月5日～11日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは0.1円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.2円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.4円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.1円の値下がりだった。先物価格は、ガソリンが0.7円の値上がり、灯油は0.9円の値上がり、軽油が横ばいだった。原油価格は値上がりし、為替の円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値上がりだった。

9月第3週の大手元売の卸価格は、1.0～1.5円の値上げだった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー 4地区平均]	今週 (9/5～9/11)	前週 (8/29～9/4)	前週比
	レギュラー	49.9	49.8
灯油	48.2	48.2	▶ 0.0
軽油	48.3	48.1	▲ 0.2

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (9/5～9/11)	前週 (8/29～9/4)	前週比
	レギュラー	50.3	49.6
灯油	49.1	48.2	▲ 0.9
軽油	48.0	48.0	▶ 0.0

※上記価格は税抜き価格

参考値 (9/5～9/11実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 0.1	▲ 0.7	▲ 0.4
灯油	▶ 0.0	▲ 0.9	▲ 0.5
軽油	▲ 0.2	▶ 0.0	▲ 0.1
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

9月11日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の131.3円、軽油は横ばいの110.3円、灯油も横ばいの76.1円だった。ガソリンは6週振りの値下がり、軽油は2週連続の横ばい、灯油は7週連続の横ばいだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは13県、横ばいは16府県、値下がり18都道府県、全国最安値は埼玉県(126.9円(同0.2円安)、次が徳島県の127.5円(同横ばい)、最高値は沖縄県の140.3円(同0.3円安)だった。最も値上がりしたのは、0.4円高の愛知県(129.0円)、最も値下がりした県は、1.0円安の和歌山県(131.2円)、横ばいは、長崎県・鹿児島県・高知県・島根県・佐賀県・富山県・青森県・大阪府・鳥取県・秋田県・茨城県・広

島県・石川県・群馬県・奈良県・徳島県だった。

原油コストは値上がりしたが、6週振りでガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストはやや値上がりした。元売会社の卸価格は、1.0～1.5円の値上げとなった。次週(9月18日)のガソリンの小売価格は、値上がりが見込まれる。

(資工庁公表) (単位: 円/%)

[週動向]	今週 (9/11)	前週 (9/4)	前週比	直近高値	
	レギュラー	131.3	131.4	▼ -0.1	08/8/4
灯油	76.1	76.1	▶ 0.0	08/8/11	132.1
軽油	110.3	110.3	▶ 0.0	08/8/4	167.4

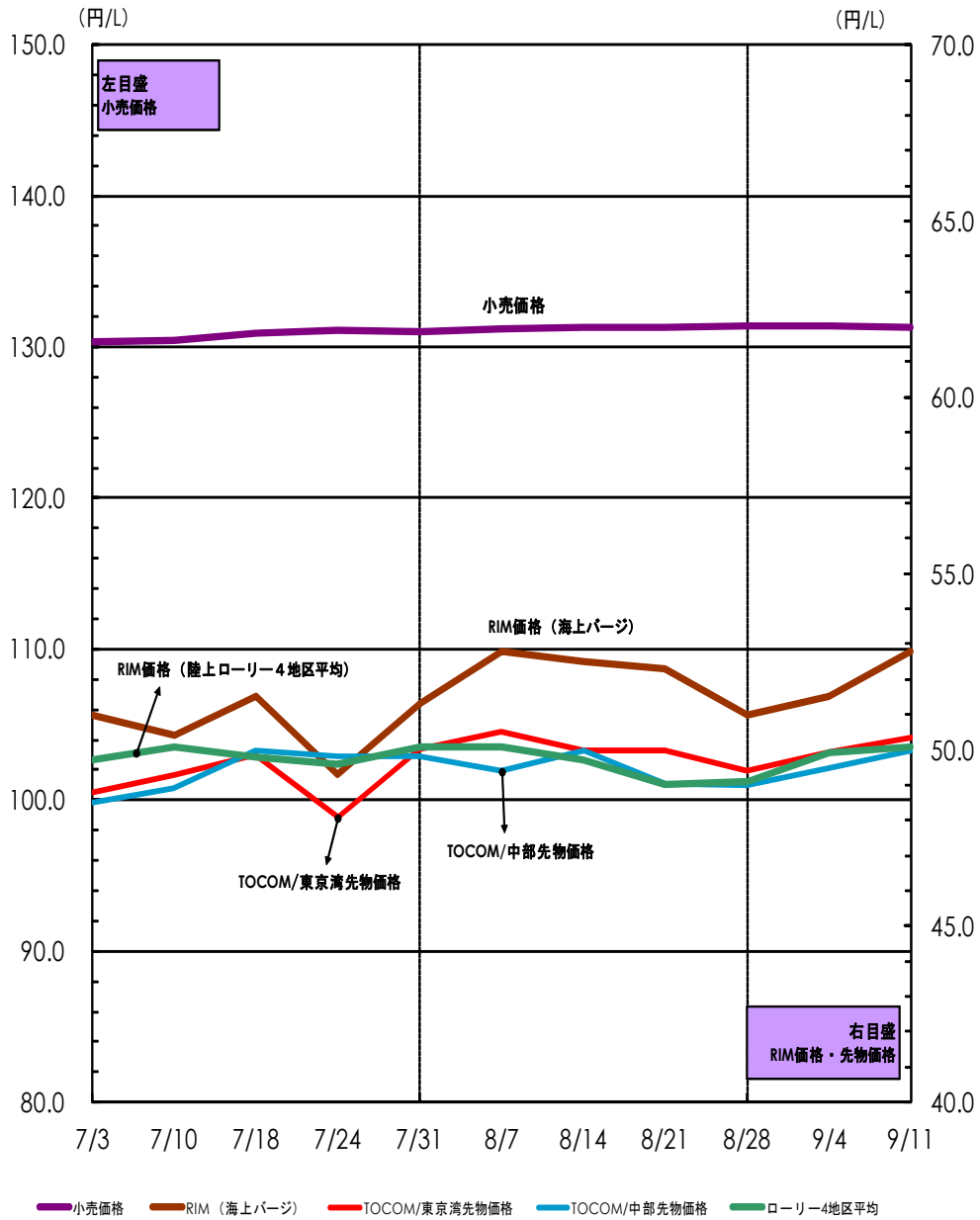
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2017/7/3 ~ 2017/9/11)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2017第23号)の公表は、9/22(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年3月末現在)は、7月26日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。  
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。  
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。  
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。  
「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。  
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」  
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。  
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。  
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。